



7月17日(日)

ボランティア選手の熱走支える 第36回全日本トライアスロン皆生大会

毎 年恒例の鉄人レース「第36回全日本トライアスロン皆生大会」が7月17日(日)に開催されました。自転車コースとなっている伯耆町では、ボランティア70人が選手たちの熱走を支えました。

ボランティアは、大山平原ゴルフクラブ前から丸山集落下の半川別れ交差点まで設置された12か所のコースポイントと、エイドステーションに分かれ、コースの誘導や飲食物の提供をしました。

植田正治写真美術館前に設置したエイドステーションでは、ボランティアが、選手に飲み物を渡しながら「お疲れ様」「頑張って」など温かい声をかけたり、冷たい水を浸み込ませたスポンジで選手の頭や首を冷やしたりするなど、選手たちの体を気遣う姿が見られました。



▲「水」「お茶」など大きな声で呼びかけながら、飲み物を渡すボランティア



▲温かいサポートに笑顔を見せる選手

7月22日(金)

新しい遊具に園児大喜び ふるさと納税寄附金で新しい複合遊具完成

ふ るさと納税の寄附金で整備した伯耆町総合スポーツ公園・チビッコ広場内の新しい遊具が、7月22日(金)に完成しました。当日は、あさひ保育園園児を招いて、遊び初めを行いました。さらに、多額の寄附に感謝の意を表し、大山ヒルズ・齋藤慎ゼネラルマネージャーに花束を贈りました。

町は、「子どもたちのために活用してほしい」という寄附者の意向に沿って、事業費1,500万円をかけ、老朽化していたチビッコ広場の遊具を更新しました。

新しい遊具は、中央の展望デッキを基点として、3連型やトンネル付きなど、5種類の滑り台が四方に付いています。そのほか、ゆらゆら吊り橋やウォールクライムなど、子どもたちが喜ぶ仕掛けがたくさん盛り込まれています。

なお、平成27年度に伯耆町へ寄せられたふるさと納税の寄附金総額は、5,724万2,105円です。福町は、今後も寄附金を活用して、福



▲ロープにぶら下がり滑り降りる「そよ風ロープウェイ」



▲新しい遊具は5種の滑り台のほか、楽しい仕掛けを約20種搭載

祉の充実や環境保全など、まちづくりのためのさまざまな事業に取り組みます。

7月24日(日)

日野川に腕自慢集結 くさしもと鮎釣り大会

第 23回くさしもと鮎釣り大会が7月24日(日)、伯耆町役場本庁舎裏の日野川を会場に開催され、県内外から集まった釣り人57人が、自慢の腕を競いました。

この大会は、川を守りながら、美しく、美しい地域環境を育てることを目的に、日野川水系漁業協同組合岸本支部が毎年開催しています。

出場者は、竿先に神経を集中させ、鮎が掛かる瞬間をじっと待ちました。優勝は、決勝戦で11匹釣り上げた伯耆町三部の奥田裕之さん(33)。今大会



▲大会で釣った鮎は社福サービス利用者に振る舞われました

に10年以上前から出場し、今回で2度目の優勝を飾った奥田さんは、「狙っていた大会なので嬉しい」と話しました。また、出雲市の田中裕一さん(46)は、この日もっとも大きい24・5cmの鮎を釣り上げ、大物賞を獲得しました。なお、大会で釣った鮎は社会福祉協議会に寄贈され、デイサービス利用者に振る舞われました。



▲鮎が掛かる瞬間を粘り強く待つ出場者



▲決勝戦で11匹釣り上げ、2度目の優勝を果たした奥田裕之さん

7月30日(土)

夏夜彩る打ち上げ花火 フェスティバル・ディア・マスマス2016

桝 水高原の夏祭り「フェスティバル・ディア・マスマス2016」が、7月30日(土)に開催されました。

今回は、大山高原ホテル跡地に新しくできた芝生広場に会場を変更。小さな子ども向けの工作教室や移動動物園など、新しい催しを多数盛り込んで行われました。昨年は雨で開催できなかったこともあってか、祭りを楽しみにしていた多くの人で賑わいました。

桝水地蔵前では、元禄9年(1696年)の大干ばつで亡くなった先祖を供養する桝水地蔵尊祭が行われ、森安保町長や行政関係者、地域住民らが参加しました。

芝生広場では、ステージライブ、美少女浴衣コンテスト、太鼓の演奏や傘踊りが会場を盛り上げました。また、子どもも大人も一緒になって、櫓の周りに大きな輪を作り、盆踊りを楽しみました。祭りの最後は、約2,000発の打ち上げ花火が夜空を彩り、見物客を魅了しました。



▲移動動物園でモルモットと触れ合う子どもたち



▲女の子は子ども向け工作教室「キーホルダー作り」に夢中



▲櫓を囲む踊りの輪